

iStorage ソフトウェア
VMware vSphere Web Client Plug-in
インストールガイド

はじめに

このインストールガイドでは、WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in のインストールに関して説明しています。

本製品は、VMware vCenter Server および、VMware vSphere Web Client と連携する製品であり、Windows のサーバへインストールして利用します。

また、本製品は、Windows 版の VMware vCenter Server と VMware vCenter Server Appliance に対応しています。

備考

1. 本書では、以下のプログラムプロダクトについて説明しています。
 - WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in
2. 本書は以下のプログラムプロダクト・バージョンに対応しています。
 - WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in V3.1 以降
3. 本文中の以下の記述は、特に明示しない限り、対応する製品名を意味します。

本文中の記述	対応する製品名
VMware vSphere Web Client Plug-in	WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in
vCenter Server	VMware vCenter Server
vSphere Web Client	VMware vSphere Web Client
vSphere Web Client Server	VMware vSphere Web Client Server

4. 商標および登録商標
 - Microsoft, Windows および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の商標または登録商標です。その他、記載されている製品名、会社名等は各社の登録商標または商標です。
5. 本製品は以下の OSS を含んでいます。ライセンスの詳細については「VMware vSphere Web Client Plug-in 利用の手引」(IS066)を参照ください。
 - Apache HTTP Server (<http://httpd.apache.org/>)
 - Apache log4j (<http://logging.apache.org/>)
 - Apache Tomcat (<http://tomcat.apache.org/>)
 - Spring Framework (<http://www.springsource.org/spring-framework>)
 - Ganymed SSH-2 for Java (<http://www.cleondris.ch/opensource/ssh2/>)
 - Jersey(<http://jersey.java.net/>)
 - The MIT License (MIT)(<https://opensource.org/licenses/mit-license.php>)

6. 本書では、特にご注意いただく内容を以下で示しております。内容については必ずお守りください。
この表示を無視して誤った取り扱いをすると、設定済みの構成に影響がある場合があります。

表示の種類	
種類	内容
	操作において特に注意が必要な内容を説明しています。

2013年 3月 初版

2018年 11月 第9版

目次

第 1 章 WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in	1
1.1 動作環境	1
1.2 インストール	2
1.3 アンインストール	9
1.4 プラグイン登録/解除コマンド	12
付録A 注意事項.....	14
付録B プラグインの解除に失敗した場合の対処.....	15
付録C vSphere Web Client のサービス再起動について	16

第1章 WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in

1.1 動作環境

動作OS	<p>Microsoft Windows Server 2008 Standard (SP 無、SP2)</p> <p>Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard (SP 無、SP1)</p> <p>Microsoft Windows Server 2008 Enterprise (SP 無、SP2)</p> <p>Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise (SP 無、SP1)</p> <p>Microsoft Windows Server 2012 Standard Edition (SP 無)</p> <p>Microsoft Windows Server 2012 Datacenter Edition (SP 無)</p> <p>Microsoft Windows Server 2012 Standard Edition R2 (SP 無)</p> <p>Microsoft Windows Server 2012 Datacenter Edition R2 (SP 無)</p> <p>Microsoft Windows Server 2016 Standard Edition</p> <p>Microsoft Windows Server 2016 Datacenter Edition</p> <p>Microsoft Windows Server 2019 Standard Edition</p> <p>Microsoft Windows Server 2019 Datacenter Edition</p>
VMware	<p>以下のバージョンに対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VMware vCenter Server 5.5 Update 1 以上 ・ VMware vCenter Server 6.0 ・ VMware vCenter Server 6.5
JRE(Java Runtime Environment)	<p>以下のいずれかの JRE (32 ビット版) が必要になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Version 8 update25 以降 [Update 181] <p>※JRE8 Update 141 は、サポート対象外です。動作検証済み最新バージョンをご利用ください。JRE8 Update141 については、JRE の不具合により一部機能を利用できない現象が発生する可能性があります。</p> <p>上記、動作検証済みの最新バージョン (上記の[]内) よりも新しい JRE 環境では動作確認を行っておりませんので、正常に動作しない場合があります。</p> <p>また、検証済最新バージョンについては弊社でテストを行った結果を記載しておりますが、お客様の環境において正常動作を保証するものではありません。</p> <p>※64 ビット版 OS にて運用される場合でも、JRE は 32 ビット版を使用してください。</p>
メモリ	OS 必要メモリ + 1GB 以上
ディスク容量	445MB 以上

※上記は、本バージョンの製品の初期出荷時点でサポートする動作環境です。

最新の情報については、ダウンロードページにて公開しております。

1.2 インストール

以下の手順に従って、VMware vSphere Web Client Plug-in をインストールします。



1. VMware vSphere Web Client Plug-in では、32 ビット版の JRE(Java Runtime Environment) を使用します。32 ビット版の JRE がインストールされていない場合は、あらかじめインストールしてください。
- 2.. インストール先のディスクやフォルダに、クォータ管理※1 やファイルスクリーニング※2 を適用する場合には、適切にご利用をお願いします。これらの使い方を誤った場合、インストール中や運用中に問題となることがあります。

※1 使用容量に制限をかけ、設定した制限値以上は使用できないようにする機能です。

※2 特定のファイル名（拡張子）のファイルを保存させないようにする機能です。

- ① JRE のインストールフォルダ配下の bin フォルダにパスを通しておく必要があります。

コマンドプロンプトを開き、JRE のインストールフォルダ配下の bin フォルダ以外で"java"を実行してください。

以下のようなメッセージが出力される場合、JRE のインストールフォルダ配下の bin フォルダにパスが通っていません。

```
C:¥>java
'java' は、内部コマンドまたは外部コマンド、
操作可能なプログラムまたはバッチファイルとして認識されていません。
```

パスが通っていない場合、以下の手順により、パスを通してください。

Windows のスタートメニューから、「コントロールパネル」→「システム」→「設定の変更」により、システムプロパティの画面を表示してください。

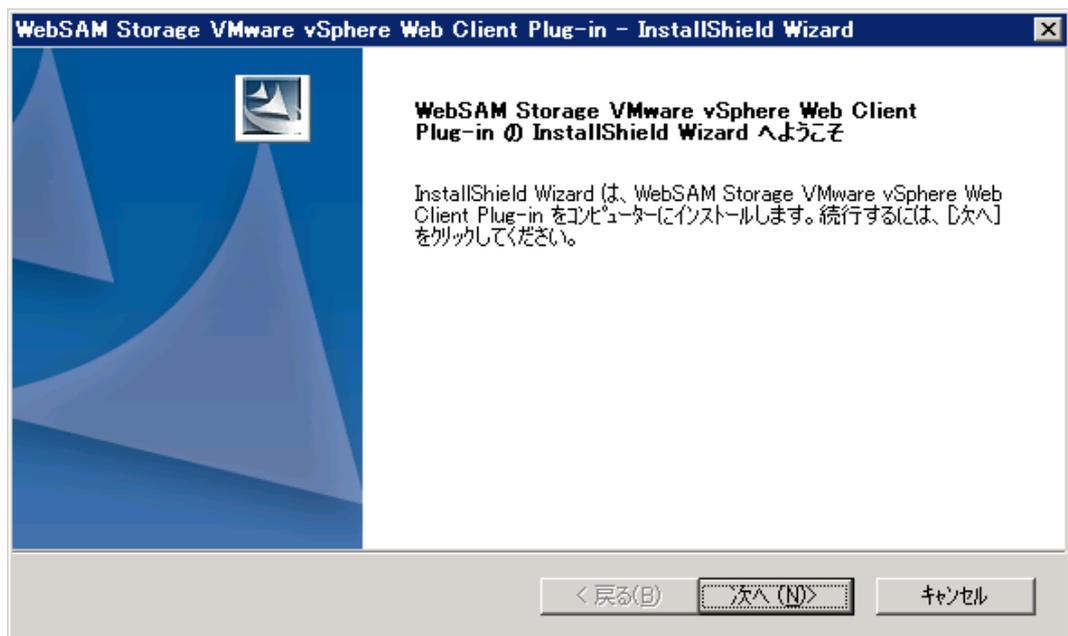
「詳細設定」タブ中にある「環境変数」ボタンをクリックすると、環境変数設定画面が現れますので、システム環境変数内にある Path ないし PATH を選択して「編集」ボタンをクリックしてください。「システム変数の編集」画面が現れますので、変数名が Path または、PATH であることを確認し、既存の変数値の最後に";"(セミコロン)を追加し、続いて「<JRE のインストールフォルダ>¥bin」を入力してください。たとえば、JRE のインストールフォルダが「C:¥Program Files (x86)¥Java¥jre8」である場合は、既存の変数値の最後に「;C:¥Program Files (x86)¥Java¥jre8¥bin」を追加します。このとき、誤って既存の変数値などを変更しないように注意してください。「OK」ボタンをクリックし、変更を確定してください。

- ② Administrator 権限のユーザで Windows にログオンし、エクスプローラなどから「SETUP.exe」を実行してください。

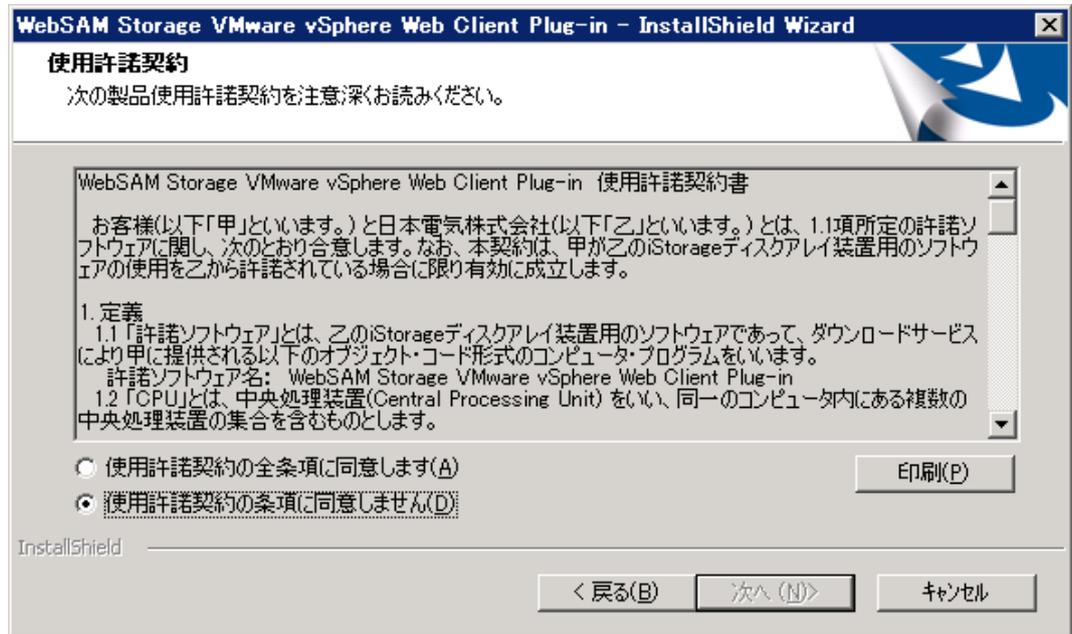
「ユーザーアカウント制御」のダイアログが表示された場合は、「続行」、または「はい」をクリックして、セットアップを開始してください。



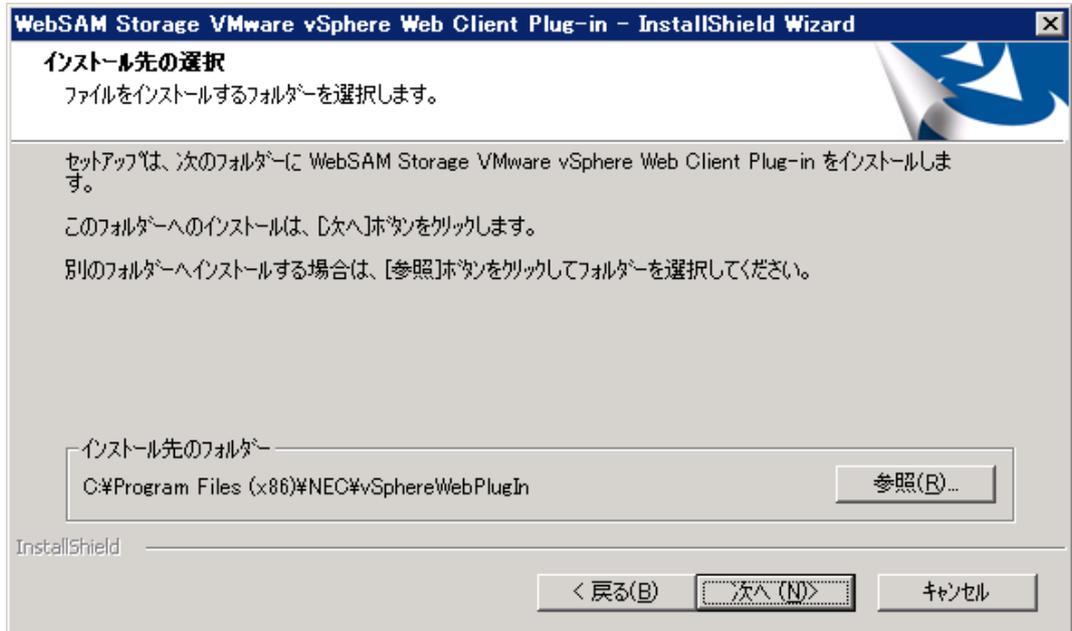
- ③ 「ようこそ」画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。



- ④ 「使用許諾契約」画面が表示されます。必ず最後まで読み、同意する場合は、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して「次へ」をクリックしてください。同意しない場合、本ソフトウェアは使用できません。



- ⑤ 「インストール先の選択」画面が表示されます。表示されているインストール先のフォルダで問題ない場合は、そのまま「次へ」をクリックしてください。インストール先のフォルダを変更する場合は、「参照」ボタンをクリックし、変更するフォルダを選択してください。



- ⑥ 「WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in Web サービス設定」画面が表示されます。

VMware vSphere Web Client Plug-in が使用するローカルホストの IP アドレス、ポート番号および Windows ファイアウォールの例外設定を行い、「次へ」をクリックしてください。

VMware vSphere Web Client Plug-in を vSphere Web Client Server と同じサーバにインストールする場合は、IP アドレスに「localhost」を入力してください。

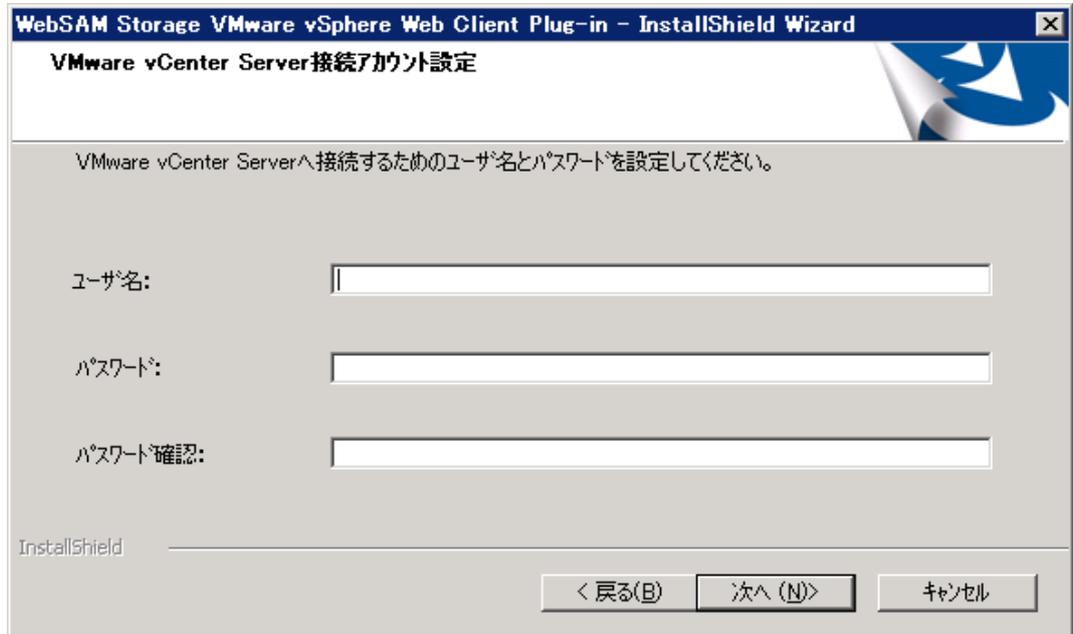
VMware vSphere Web Client Plug-in を vSphere Web Client Server とは異なるホストにインストールする場合は、IP アドレスをプルダウンメニューから選択して、「許可する」を選択してください。なお、ローカルホストの IP アドレスは、直接入力することも可能です。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in - InstallShield Wizard". The main heading is "WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in Web サービス設定". The text inside reads: "WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-inが使用するローカルホストのIPアドレスとポート番号を設定してください。ポート番号が他のアプリケーションと競合する場合は変更してください。" Below this, there are four input fields for ports: "ポート番号 1:" (8985), "ポート番号 2:" (8986), "ポート番号 3:" (8987), and "ポート番号 4:" (8988). There is also an "IPアドレス:" dropdown menu. A section titled "Windowsファイアウォールの例外設定" contains the text: "WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-inをVMware vSphere Web Client Serverとは異なるホストにインストールする場合は、選択してください。" and a checkbox labeled "許可する" which is currently unchecked. At the bottom, there are buttons for "< 戻る(B)", "次へ (N)>", and "キャンセル".

- ⑦ 「VMware vCenter Server IP アドレス設定」画面が表示されます。vCenter Server へ接続するための IP アドレスと HTTPS ポート番号を設定し、「次へ」をクリックしてください。

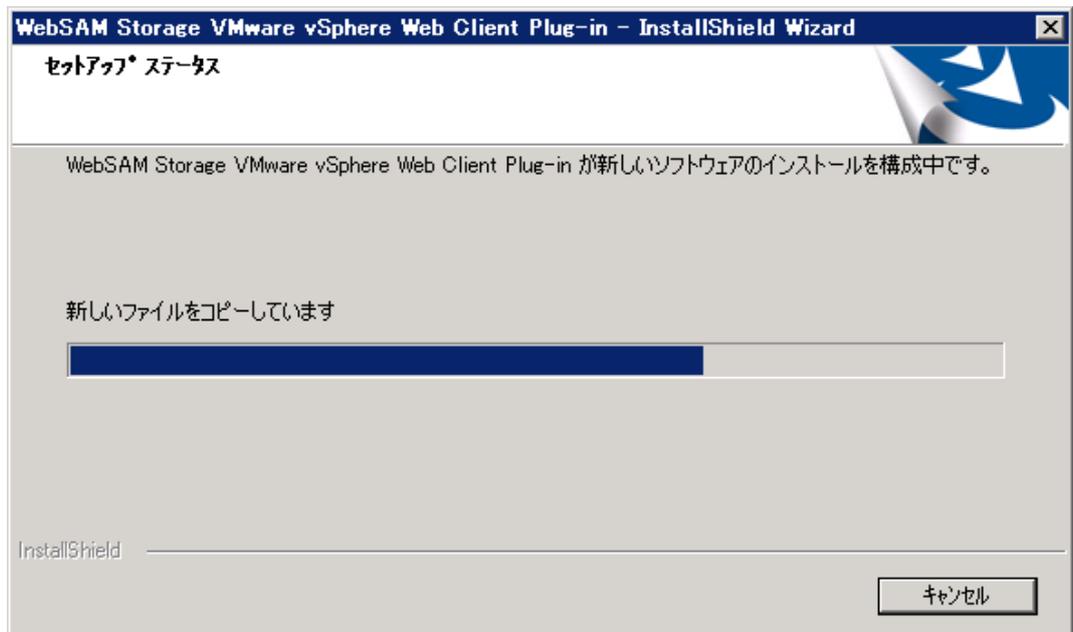
The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in - InstallShield Wizard". The main heading is "VMware vCenter Server IPアドレス設定". The text inside reads: "VMware vCenter ServerのIPアドレスとHTTPSポート番号を設定してください。" Below this, there are two input fields: "IPアドレス:" (empty) and "HTTPSポート番号:" (443). At the bottom, there are buttons for "< 戻る(B)", "次へ (N)>", and "キャンセル".

- ⑧ 「VMware vCenter Server 接続アカウント設定」画面が表示されます。vCenter Server へ接続するためのユーザ名とパスワードを入力してください。確認のためもう一度パスワードを入力して、「次へ」をクリックしてください。

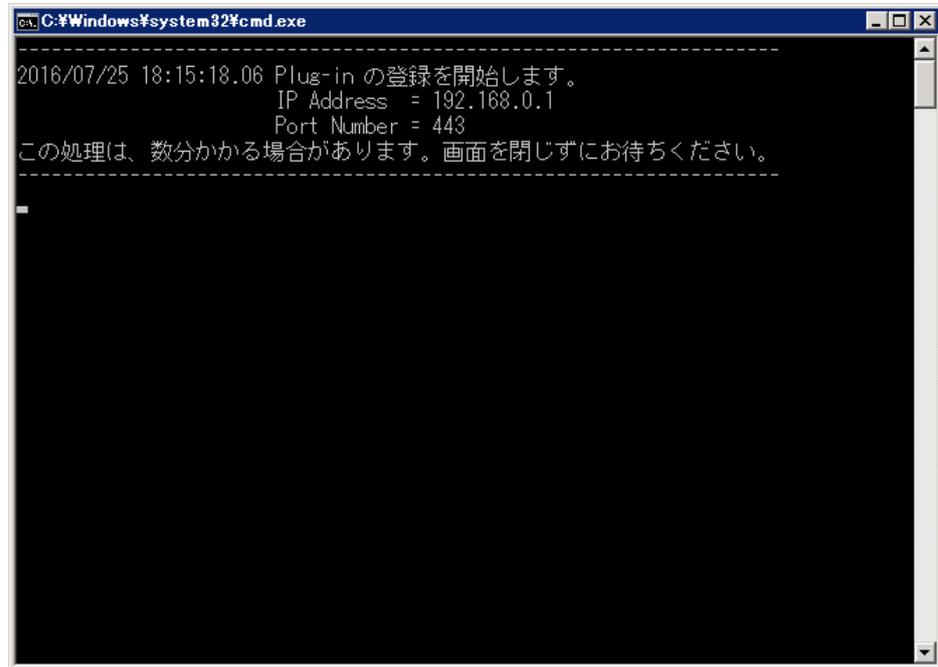


「VMware vCenter Server 接続アカウント設定」では、vCenter Single Sign On へ登録した vCenter Server の管理者ユーザを指定してください。

- ⑨ 「セットアップステータス」画面が表示され、ファイルのインストールが開始します。



- ⑩ 「コマンドプロンプト」画面が表示され、vCenter Server へのプラグイン登録が始まります。この処理は、数分かかる場合がありますので、画面を閉じずにそのままお待ちください。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
-----
2016/07/25 18:15:18.06 Plug-in の登録を開始します。
                    IP Address = 192.168.0.1
                    Port Number = 443
この処理は、数分かかる場合があります。画面を閉じずにお待ちください。
-----
```



vCenter Server との通信障害などの理由によりプラグインの登録が失敗した場合でも VMware vSphere Web Client Plug-in のインストールは続行し、正常終了します。インストーラでのプラグイン登録が失敗した場合でもプラグイン登録コマンドでプラグインを登録することが可能です。プラグイン登録コマンドでの登録方法は、「1.4 プラグイン登録／解除コマンド」を参照してください。

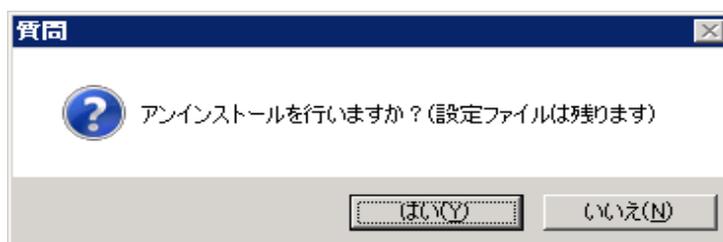
- ⑪ 以上で、インストールは終了です。「完了」をクリックしてください。



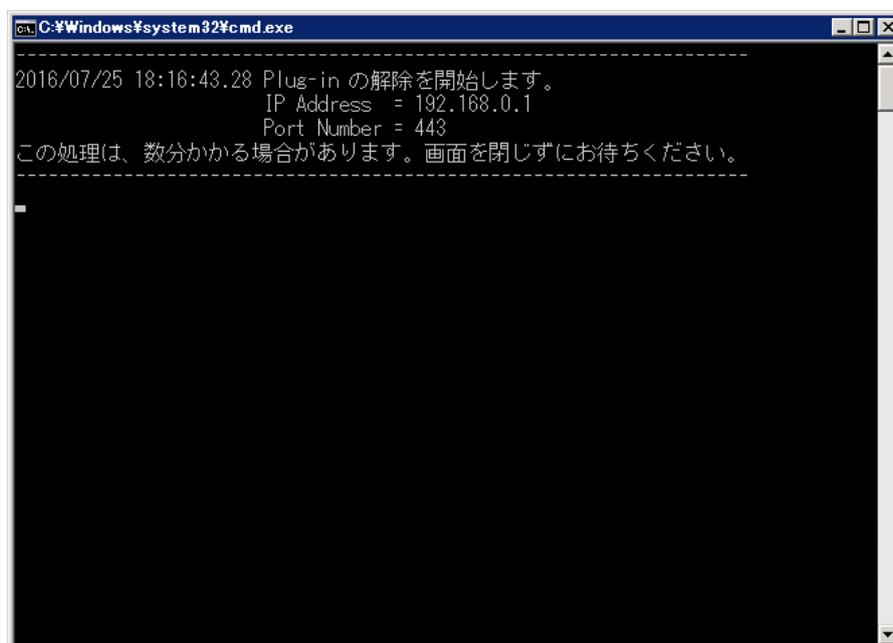
1.3 アンインストール

以下の手順に従って、VMware vSphere Web Client Plug-in をアンインストールします。

- ① Administrator 権限のユーザで Windows にログオンします。
- ② 「コントロールパネル」の「プログラムと機能」により、ソフトウェア「WebSAM Storage VMware vSphere Web Client Plug-in」をアンインストールします。
「ユーザーアカウント制御」のダイアログが表示された場合は、「続行」、または「はい」をクリックして、アンインストールを開始してください。
- ③ 「質問」ダイアログが表示されます。VMware vSphere Web Client Plug-in をアンインストールする場合は、「はい」をクリックしてください。

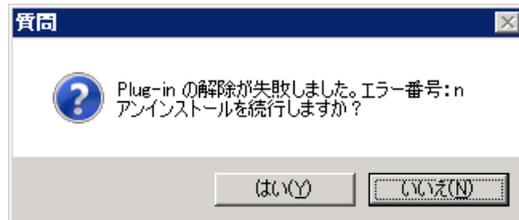


- ④ 「コマンドプロンプト」画面が表示され、vCenter Server からプラグインの解除が始まります。この処理は、数分かかる場合がありますので、画面を閉じずにそのままお待ちください。プラグイン登録コマンドを使用して、複数の vCenter Server へプラグインを登録している場合は、アンインストール時に全てのプラグインを解除します。プラグイン登録コマンドの詳細は、「1.4 プラグイン登録/解除コマンド」を参照してください。

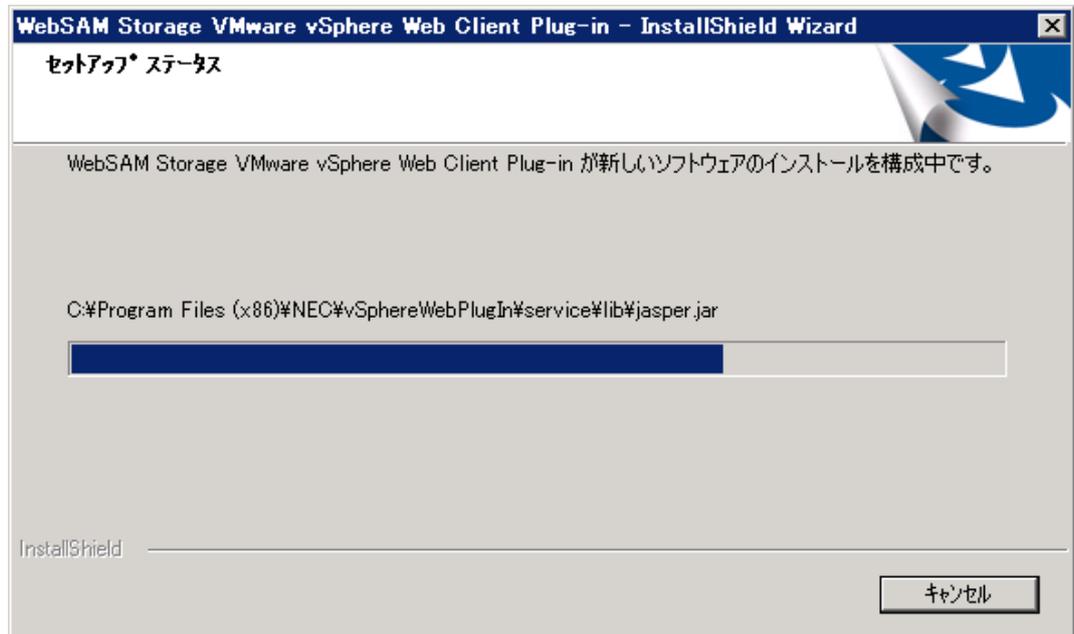




プラグインの解除が失敗し、以下の「質問」ダイアログが表示された場合の対処については、「付録B プラグインの解除に失敗した場合の対処」を参照してください。



- ⑤ 「セットアップステータス」画面が表示され、ファイルのアンインストールが開始します。

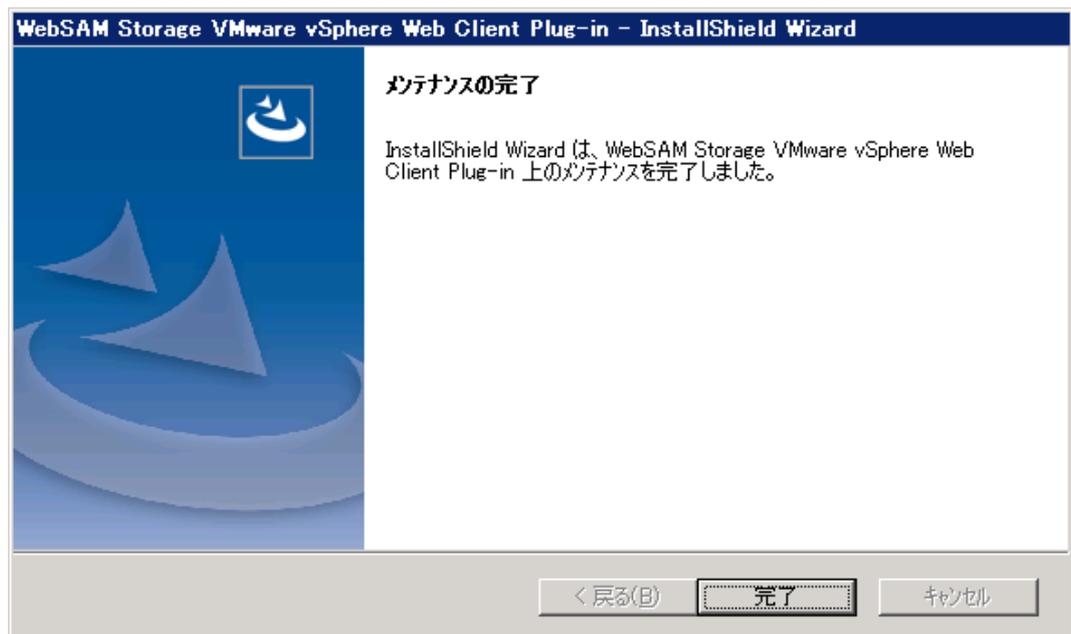


- ⑥ プラグインの解除が成功した場合は、vSphere Web Client のサービスを再起動する必要があります。



vSphere Web Client のサービス再起動については、「付録 C vSphere Web Client のサービス再起動について」を参照してください。

- ⑦ 以上で、アンインストールは終了です。「完了」をクリックしてください。



インストール先のフォルダには、アンインストール後も各種設定ファイルが残ります。再度インストールする場合は、これらの設定を引き継ぐことができます。
不要であれば、インストール先フォルダ配下のファイルを全て削除してください。

1.4 プラグイン登録／解除コマンド

VMware vSphere Web Client Plug-in では、複数の vCenter Server へプラグインを登録して運用することができます。

1 台目の vCenter Server へのプラグインの登録は、インストール時に行いますが、2 台目以降の vCenter Server へは、コマンドでプラグインを登録します。

なお、1 つの VMware vSphere Web Client Plug-in は、最大 10 台の vCenter Server へプラグインを登録することができます。

【形式】

WebPlugInReg <モード> <IP アドレス> <ポート番号> <ユーザ名> <パスワード>

モード : 以下のいずれかのモードを指定します。

- a プラグイン登録
- d プラグイン解除
- l 登録済プラグインの一覧表示

IP アドレス* : vCenter Server の IP アドレスを指定します

ポート番号* : vCenter Server の HTTPS ポート番号を指定します

ユーザ名* : vCenter Server へ接続するためのユーザ名を指定します

パスワード* : vCenter Server へ接続するためのパスワードを指定します

※-a,-d 指定時は省略不可

【説明】

Windows のコマンドプロンプトを「管理者として実行」で起動してください。

<インストールフォルダ>%bin へ移動し、「WebPlugInReg」コマンドを実行することで、モードに従い、指定した IP アドレス／ポート番号の vCenter Server へプラグインを登録／解除することができます。

なお、vCenter Server へ接続するためのユーザ名／パスワードには、vCenter Single Sign On へ登録されている vCenter Server 管理者ユーザのユーザ名／パスワードを指定してください。



ユーザ名とパスワードは、ダブルクォーテーション「"」で囲む必要があります。

ユーザ名またはパスワードに「"」を含む場合は、「""」を入力してください。「¥」を含む場合は、「¥¥""」を入力してください。

また、ユーザ名またはパスワードの末尾が、「¥」の場合は、「¥¥」を入力してください。ユーザ名またはパスワードの末尾に「¥」が複数連続する場合は、連続する「¥」と同じ数の「¥」を末尾に追加してください。

[使用例]

```
C:¥>cd ¥Program Files (x86)¥NEC¥vSphereWebPlugIn¥bin
C:¥Program Files (x86)¥NEC¥vSphereWebPlugIn¥bin>WebPlugInReg -a 192.168.0.1 443 "administrator@
vsphere.local" "Passwd!23"
Registration of plug-in succeeded.
ReturnCode: 0
```

付録A 注意事項

(1) アップデートの注意事項

- ・VMware vSphere Web Client Plug-in は、上書きインストールできません。バージョンアップする場合は、旧バージョンのアンインストールを行い、新バージョンのインストールを行います。この場合、インストール先フォルダが旧バージョンと同じであれば、設定情報などは全て引継がれます。ただし、vCenter Server へのプラグインの登録状態は、インストール時に登録した vCenter Server のみを引き継ぎますので、その他の vCenter Server への再登録が必要な場合は、コマンドで再登録してください。コマンドでの登録方法は、「1.4 プラグイン登録／解除コマンド」を参照してください。
- ・バージョンアップが完了した後、vSphere Web Client を利用する前に Internet Explorer の「閲覧の履歴」（「インターネット一時ファイルおよび Web サイトのファイル」をチェックして）を削除する必要があります。

(2) バージョンダウン時の注意事項

- ・VMware vSphere Web Client Plug-in を旧バージョンにバージョンダウンする場合は、現バージョンのアンインストール後、インストールフォルダ配下のファイルを全て削除してから旧バージョンをインストールする必要があります。
- ・バージョンダウンが完了した後、vSphere Web Client を利用する前に Internet Explorer の「閲覧の履歴」（「インターネット一時ファイルおよび Web サイトのファイル」をチェックして）を削除する必要があります。
- ・バージョンダウンが完了した後、vSphere Web Client のディレクトリにバージョンダウン前のプラグインのファイルが残りますので必要に応じて、削除してください。ファイルの削除方法は、「付録C vSphere Web Client のサービス再起動について」を参照してください。

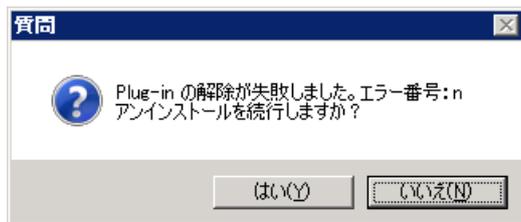
(3) vCenter Server 再インストール時の注意事項

- ・vCenter Server を再インストールした場合、vCenter Server へ登録済のプラグインは、削除されますので、コマンドでプラグインを再登録してください。コマンドでの登録方法は、「1.4 プラグイン登録／解除コマンド」を参照してください。

付録B プラグインの解除に失敗した場合の対処

(1) アンインストール時にプラグインの解除に失敗した場合の対処

VMware vSphere Web Client Plug-in のアンインストールで、プラグインの解除が失敗し、以下の「質問」ダイアログが表示された場合は、プラグインの登録状態に従い対処してください。



- すでにプラグインが解除されている場合
すでに vCenter Server がアンインストールされている場合など、プラグインが登録されていない場合は、「はい」をクリックしてアンインストールを完了させてください。
- プラグインは登録されているが、プラグインの解除が失敗した場合
vCenter Server との通信障害などでプラグインの解除が失敗した場合は、「いいえ」をクリックしてアンインストールを中断し、失敗の原因を取り除いた後、「1.3 アンインストール」に従い、再度アンインストールを実行してプラグインの解除を完了させてください。

付録C vSphere Web Client のサービス再起動について

VMware vSphere Web Client Plug-in のアンインストールおよび、コマンドでプラグインを解除した場合は、vSphere Web Client のサービスを再起動する必要があります。また vSphere Web Client のディレクトリにプラグインのファイルが残りますので必要に応じて、削除してください。

vSphere Web Client のサービス再起動方法および、ファイルの削除方法は、vCenter Server の構成およびバージョンにより異なりますのでそれぞれについて以下に手順を示します。

(1) サービスの再起動

- vCenter Server 5.5 の場合

vSphere Web Client がインストールされているサーバの OS または、以下のサービスを再起動してください。

サービス名 : vspherewebclientsvc

サービス表示名 : VMware vSphere Web Client

- vCenter Server 6.0 の場合

vCenter Server がインストールされているサーバの OS または、以下のサービスを再起動してください。

サービス名 : vspherewebclientsvc

サービス表示名 : VMware vSphere Web Client

- vCenter Server 6.5 の場合

vCenter Server がインストールされているサーバの OS を再起動してください。

- vCenter Server Appliance 5.5、6.0、6.5 の場合

vCenter Server Appliance を再起動してください。

(2) ファイルの削除

- vCenter Server 5.5 の場合
vSphere Web Client がインストールされているサーバで以下のディレクトリ配下のファイルをディレクトリごと削除してください。

```
<システムドライブ>:\ProgramData\VMware\vsphere Web Client\vc-packages\vsphere-client-serenity\
istorage.webclient.plugin-x.x.xxx
```

※ **x.x.xxx** は、VMware vSphere Web Client Plug-in のバージョンによって異なります。

- vCenter Server 6.0、6.5 の場合
vCenter Server がインストールされているサーバで以下のディレクトリ配下のファイルをディレクトリごと削除してください。

```
<システムドライブ>:\ProgramData\VMware\vCenterServer\cfg\vsphere-client\vc-packages\
vsphere-client-serenity\istorage.webclient.plugin-x.x.xxx
```

※ **x.x.xxx** は、VMware vSphere Web Client Plug-in のバージョンによって異なります。

- vCenter Server Appliance 5.5 の場合
以下のディレクトリ配下のファイルをディレクトリごと削除してください。

```
/var/lib/vmware/vsphere-client/vc-packages/vsphere-client-serenity/
istorage.webclient.plugin-x.x.xxx/
```

※ **x.x.xxx** は、VMware vSphere Web Client Plug-in のバージョンによって異なります。

- vCenter Server Appliance 6.0、6.5 の場合
以下のディレクトリ配下のファイルをディレクトリごと削除してください。

```
/etc/vmware/vsphere-client/vc-packages/vsphere-client-serenity/
istorage.webclient.plugin-x.x.xxx/
```

※ **x.x.xxx** は、VMware vSphere Web Client Plug-in のバージョンによって異なります。

(このページは空白です)